

中高年・団塊世代...へ戻る

脳卒中障害者...へ戻る

1. 「共生・共助社会」の実現へ向けて行動する団体に学ぶ
2. 3団体の願いの先にあるもの
3. 健常者と障害者の協働IT事業へ

1. 「共生・共助社会」の実現へ向けて行動する団体に学ぶ

1) 社会福祉法人 プロップ・ステーション

<http://www.prop.or.jp/>

神戸市東灘区向洋町中

(1) プロップの意味と活動

プロップ(prop)」というのは「支え合い」を意味する言葉。

プロップ・ステーションは、ICTを駆使して、チャレンジドの自立と社会参画、とりわけ就労の促進や雇用の創出を目的に活動する社会福祉法人です。

for the Challenged から by the Challenged へ。

チャレンジドのためにという発想を超え、チャレンジドが社会のために様々な活躍ができる日本をめざして、活動を続けます。

(2) プロップのオピニオンについて (竹中理事長 記事抜粋)

プロップのスローガンは「チャレンジドを納税者にできる日本」という

「刺激的な」ものですが、高齢化と少子化が大変なスピードで同時進行している日本では、フルタイムで働ける人や残業もいとわない、という人がどんどん少なくなっています。そうした社会にあってなお、福祉的財源(人とお金)を維持して行ける国であるためには、「一人でも多くの人が "自分の身の丈に合った" 働き方で支える」という構造に日本の社会システムが変化しないと持ちません

プロップでは「障害者」というネガティブな呼称ではなく

「チャレンジド」(挑戦という使命やチャンスを与えられた人を表す米語)という言葉を使うことによって、すべての人が「支え合うという誇り」を持って生きられる「ユニバーサル社会」の実現をめざしています。

「ユニバーサル社会」を日本語で表現するのはなかなか難しいのですが、敢えていうならば「共生・共助社会」でしょうか。人がみな、自分の身の丈にあった活躍ができ、お互いに尊重しあい、支え合うことができはじめて、持続可能な日本を生み出すことが出来ると私は信じています。

(3) プロップの活動：

与党うにバーサル社会 P T チャレンジド就労支援
フォーラム・シンポジュームの開催 メールマガジン・図書の発行
パソコンセミナーの開催 C C P など多岐にわたっている。

2) 特定非営利活動法人 「ぶうしすてむ」 <http://www.busystem.jp/index.html>

事務局 愛媛県松山市御幸

(1) 『ぶうしすてむ』は何をしているの？

障害者の雇用は深刻な問題です。在宅パソコンワーク(SOHO)はその答えになるはずです。

『ぶうしすてむ』はパソコンを使って障害者の活動や就労を支援する会です。様々な障害を持つ人たちがパソコンを利用する事で活動範囲を広げ、習得した技術を活かして社会参加する事を支援する団体です。

(2) 次の4つを主な活動目的としています。

障害者がパソコンを利用するお手伝いをします。

「パソコンを購入しようと思うんだけど...」や「今は持っていないけれど勉強してみたい」という障害者のパソコンに関する相談にのります。また、ぶう事務所までパソコンを習いに来れない方、外出困難な重度障害者のために自宅などにお伺いしてパソコンの設定をしたり、使い方の説明をしたりするパソコンの訪問指導・修理も行っています。

一緒にパソコンを勉強します。

障害者の方でも気軽に参加できるような講習会や勉強会、Word や Excel などの個人指導を通じて、一緒にパソコンの勉強をしています。

障害者がパソコンで仕事ができる環境を目指します。

さらに進んで、パソコンを使った仕事がしたいという障害者のために C A D やホームページ制作、データ入力技術など専門技術を習得して頂く環境を提供しています。

「ぶうしすてむ」内でも「ぶうビジネス」と題してプロジェクトチーム育成を展開中です。

障害者・健常者の助け合いを祈念します。

「ぶうしすてむ」は障害者を支援するボランティア団体です。
障害のある人もない人もより多くの方々に興味を持って頂き我々と一緒に活動して頂ける活動ボランティアさんを広く求めています。何も難しいことはありません。あなたの持っている力を少し貸して頂けるだけでOKです。

3) NPO 法人アイ・コラボレーション / 滋賀県草津市

障害者と健常者が共に IT 技術で自立する NPO

- (1) 理事長：岡本幸助さん（56 歳）おかもと・こうすけ / 滋賀県出身。

自動車メーカーで技術者として勤務するが、通勤途中に事故に遭い、退職。車椅子ユーザーに。10 年間のリハビリ生活、小規模作業所での勤務などを経て、NPO を旗揚げ。

身体障害者福祉協会、脊髄損傷者協会の会長も務める

- (2) 独立のいきさつ

インターネットがますます身近になるという流れを感じていました。

障害があっても、IT 技術があれば、しっかり稼いで自立することができると思っ
たんです。自治体の施設には最新のパソコンがズラリとそろっているのに、誰
も借りていない状況でしたから、この施設を生かさない手はないと。仲間を
かけ、10 人くらいで IT の勉強会を始めました。

誰もがパソコン初心者でしたから、HTML を初歩から学んだり、印刷技術に関し
て学んだり……。講師も手弁当で招いて、みっちり勉強していきました。

- (3) 強みは、障害者だからこそ、障害者のニーズがわかること

自治体から請け負った制作物は、障害があるからこそその秀逸な着眼点。

トイレマップはすべて写真を掲載し、段差やスロープなど詳細な情報が評
価されている

周囲は「そんなこと、障害者にできるわけがない」と反発も大きかった
んです。しかし、小規模作業所ではいくら頑張っても、約 1 万 5000
円の月例給。障害者年金を得ても自立は困難な状況ですから、「IT とい
う社会で勝つための武器を手に入れるんだ」なんて言って必死でしたよ。

ただ、IT技術を身に付けたからといって、Web制作やDTPなどを行う競合がたくさんあるわけです。そこで何が我々の強みなのか考えました。出た答えは「障害があるからこそ、障害者のニーズがわかる」ということ。これまでボランティアで、障害者向けのトイレやホテルマップなどをつくってききましたから、これをデジタル化したら便利だろうと。時代も後押ししてくれました。「iモード」の登場です。これによって、ニーズが拡大していったんです。

2. 3団体の願いの先にあるもの

- 1) 共生・共助の世界の実現を真剣に目指した行動である
- 2) 高齢化と少子化が大変なスピードで同時進行している日本において、福祉的財源（人とお金）を維持して行ける国であるためには、「一人でも多くの人が"自分の身の丈に合った"働き方で支える」という構造に日本の社会システムが変化しないと持ちませんという「社会変革」ともいべき状況認識があった。
- 3) そのような働き方を「IT」「ICT」に求め、「ウェブ革命」がその実現に大きな力を発揮していることが伺えた。
- 4) この3団体で実行されていることは、他地区でも実現可能なものが存在していると思われた。

3. 健常者と障害者の「協働IT事業」へ

1) 健常者と障害者の「協働IT事業」基盤の確立

IT事業活性化の最大の課題は、ビジネスモデルを創出し、事業基盤を確立することである。

さらに、健常者と障害者の特性を活かし、既存企業との競合しないようなビジネスモデルの構築が必要とされる。

獲得したIT技能を活かした新事業活動および新地域活動への準備

インターネットに関する知識や技術を活用した事業活動や自治体のアウトソーシングのような新地域活動のへと乗り出す準備段階に来たといえる。

さらに高度化したIT教育・IT技術の習得

業務内容の分析や世の中の仕組みについては、経験を積んだシニア層の方が高いスキルを保持している可能性がある。

新たな地域課題を発掘し、行政との協働化の推進

(例えば)

- ・将来は、「市民窓口」の委託
- ・使用率が低下している公共施設の活性化

- ・地域の安心・安全対策
- ・地域資源の見直し、活性化
- ・シニアによるシニア活用：プラットフォームの設置
- ・地域産業の活性化サポート

メール、メーリングリスト、ホームページなどをはじめ、ビジネスモデルを管理する情報システムを運営によるSOHO活動を支援する。

2) IT事業基盤づくりの追加されるべき視点

- 1) シニアの経験や知恵を活かして、例えば「ホームページ作りの中で」中小企業やベンチャー企業が整備途上にある機能をサービス提供する。
- 2) 地域や行政の抱える課題解決のためのサービス提供。
特に民間ならではの対応が生き、地域との関わりが有効機能するもの。
- 3) 技術の進展や産業構造の変化の中で継承することが困難なノウハウを提供するサービス等。特にデジタル化が進展していくほどにアナログ技術に対する知識が必要とされる場面が多く見られる。
- 4) 事業-9「R&D」: 事業-16「セールスレップ・ネット」等も含め、「生涯現役を目指して」の全事業の可能性を考えること。

[中高年・団塊世代...へ戻る](#)

[脳卒中障害者...へ戻る](#)